

LIONFILE CO.,LTD.

— since 1964 —

We product FILING SUPPLY

ライオンファイル株式会社



ファイルの総合メーカー

「あらゆるファイルつくります!」

魅力発信レポート**2009**

はじめに

今を綴じる 未来を開く 企業活動と環境の調和を目指して

ライオンのファイルは常に時代ニーズを先取りし、「お客様に愛され親しまれる商品」を提供すべく、丹精に心をこめてファイルを作っています。自動化を積極的に進める一方、お客様の要望にお応えした別注ファイルにも対応しております。

「お客様の身になって考える」これがライオンファイルの姿勢です。ファイルの総合メーカーとしての誇りにかけて、「あらゆるファイルつくります!」。



※ 中小企業魅力発信レポートとは

中小・小規模企業が必要な人材の確保等を行っていくために、魅力ある企業情報を発信するレポートです。



1. 会社概要

● 会社概要

商 号	ライオンファイル株式会社
資 本 金	4,800万円
代 表 者	勝又 規雄
事業内容	(1)ファイルの製造及びその販売 (2)文房具、事務用品の製造及びその販売 (3)前項に付帯する事業
事 業 所	本社: 東京都中央区日本橋馬喰町2-2-6 朝日生命須長ビル2F TEL 03-3664-0675 E-mail honsha@lionfile.co.jp 富士工場: 静岡県裾野市金沢横山下511 TEL 055-997-2975 E-mail fuji@lionfile.co.jp HP http://www.lionfile.co.jp/
従 業 員	60名

● 沿革

1964年12月	ライオンファイリング株式会社 資本金1,000万円にて設立 静岡県駿東郡裾野町に富士工場を設立
1965年 2月	西ドイツ、ザンダー社よりフラットファイル自動製造機導入
1974年 5月	資本金を2,000万円に増資する
1976年 7月	社員研修施設として十里木山荘を建設
1979年12月	資本金を3,000万円に増資する
1984年12月	裾野市金沢横山下511に金沢工場を建設する
1988年12月	金沢工場に第2棟を建設し、第一・第二工場を金沢工場に統合し、富士工場と改める
1991年 1月	事務用ファイル(フラットファイル)に日本工業規格表示の許可を得る (JIS S5505 第390076号) 静岡県裾野市の社会科副読本に当社が掲載される
1993年 3月	社名を「ライオンファイル株式会社」と改める
4月	東京ファイル株式会社と合併し、岩槻工場として事業を継承する
1998年10月	裾野市今里に富士第二工場建設
12月	創立35周年を迎え「メモリアル35 社員感謝デー」開催
1999年 1月	中国広東省にてPPファイル商品の生産に着手する
10月	国際標準規格 ISO9002:1994 品質システムを認証取得 (登録番号 JSAQ 600)
2002年 6月	環境マネジメントシステム ISO14001:1996 を認証取得 (登録番号 JSAE 530)
2004年 1月	中国太倉と業務提携し、フラットファイルの生産を開始する
2007年 5月	生産効率を高める為、岩槻工場の生産機能を富士工場に集約する
6月	ビニール関連ファイルの生産を開始する



2. 事業価値

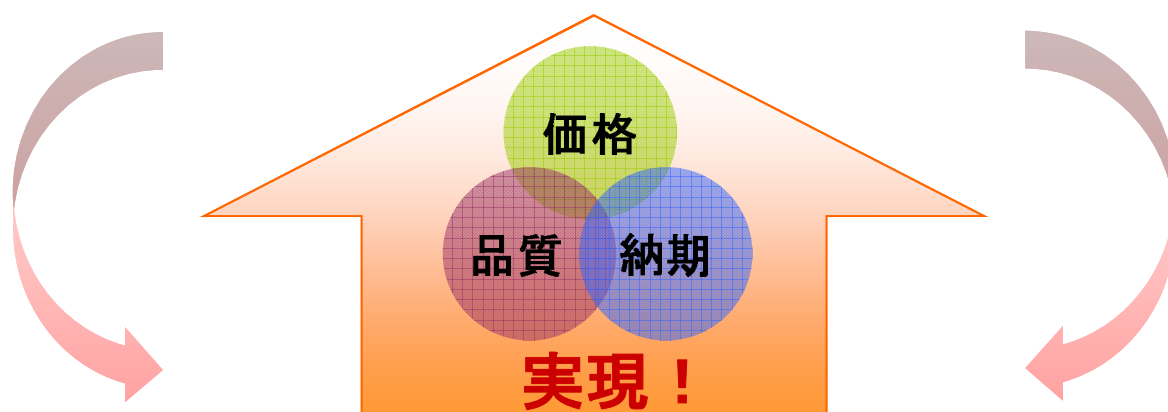
ライオンファイル(株) 経営戦略 大手企業との絶対的な“信頼”“パートナーシップ”の構築

(株)ライオン事務器の中核企業としての「歴史」と「実績」

安定
働きやすさ

誇り

社会貢献
活動



現場力

- ・自動化
- ・社内管理体制
- ・改善活動

人材・組織力

- ・リーダー
- ・組織文化
- ・教育体制

連携力

- ・(株)ライオン事務器
- ・福和会

ライオンファイル(株)は、40年以上の歴史の中で「現場力」「人材・組織力」「連携力」を高めてきました。そして、(株)ライオン事務器の「価格」「品質」「納期」ニーズを一つ一つ実現してきたことにより、絶対的な「信頼」「パートナーシップ」を構築してきました。(株)ライオン事務器の中核企業としての「歴史」「実績」がもたらす「誇り」「働きやすさ」「社会貢献活動」が、さらに企業を強くします。この相乗効果によってさらなる成長を目指すのが、ライオンファイル(株)の経営戦略です。



2. 事業価値

現場力

“自動化” “社内管理体制” “改善活動”

● 完全自動化への挑戦 ～「ときには“機械屋”になる」～

当社の歴史は、45年前の創業時にドイツからファイル製造専用機械を輸入したところから始まりました。その時から、“QCD”中でもコスト競争力を高める為に、いかに生産工程を“自動化”していくかに、注力してきました。機械メーカーとの連携の上で、“世界で1台しかない機械”を完成させる為、社長・工場長をはじめとする経営陣を中心に、自ら“機械屋”になって改良していきました。

その結果、“薄もの”から“厚もの”まで、少量多品種1,200種類の紙ファイルを自動生産する、“ファイルの総合メーカー”としての地位を築きました。



● 社内管理体制の構築 ～JIS規格からISO認証取得へ～

当社は、1991年事務用ファイル(フラットファイル)に日本工業規格表示の許可を得た(全国で3社のみ)のを皮切りに、1999年に国際標準規格の品質システムであるISO9002:1994を認証取得。2002年には環境マネジメントシステムISO14001:1996及び品質システムISO9001:2000を全社で認証取得し、国際基準の社内管理体制を構築しています。



● 地道な改善活動 ～細かい改善の積み重ねが大きな成果へ～

生産ラインの自動化と同時に、各工程の絶え間ない改善活動を行っています。例えば「歩留り向上できる裁断方法」「多能工化」「平準化」といったテーマに取り組み、細かい改善を積み重ねてきました。その結果、少ない人数で少量多品種1200種類以上の製品を低コストで生産できる、現在の姿にたどり着きました。

そして、「標準作業量」「生産日報」で管理を行い、不具合発生時は担当者に「不適合是正報告書」で報告させる等、ISO9001に則した活動を行っています。



2. 事業価値

人材・組織力

“リーダー” “組織文化” “教育体制”

● 経営陣のリーダーシップ ～社長・専務の“二人三脚”～

創業者として求心力を発揮する経営者と、経営者・管理職・従業員の橋渡し役を務める専務。この二人三脚のリーダーシップにより、社内の信頼関係が構築され、全社一丸の姿勢となって現れています。

具体的には、社長が目標提示し、専務が目標達成に向けた取り組みを、従業員に指導しています。



● 組織文化 ～過去の歴史と新しい風～

45年の歴史を通じ、“チャレンジ精神” “ざっくばらん” “こつこつ”といった特長＝組織文化が根付いています。

さらに、ここ最近入社した若手社員によって、“若さ” “明るさ”といった雰囲気も出てきており、非常に活気のある、気持ちの良い職場となっています。



● 教育体制 ～徹底したOJTで“職人技”を次の世代へ～

当社では高齢化が進んでいましたが、数年前に若手社員を採用し、彼らにOJTによるノウハウの承継を進めてきました。機械オペレートひとつ取っても「機械の癖」「気候変動による紙への影響(水分量)」等、多くのノウハウを必要とするため、さらに習熟度を高めるべく教育体制を充実させていきます。



経営者の思い・理念の浸透



組織文化が根付く



教育体制の構築⇒次の世代へ



2. 事業価値

連携力

“サプライ&サポートチェーン”で限られた経営資源を補完

● (株)ライオン事務器 ～絶対的な信頼関係～

当社は、日本を代表する事務器メーカーである(株)ライオン事務器の中核企業としての歴史を歩んできました。商品企画・販売機能を(株)ライオン事務器が担うため、当社は開発・生産業務に専念出来ます。提示された企画をどう具現化するかは、当社の開発力・生産力にかかっています。厳しい市場競争に勝ち抜くため、お互いに協力し合い最高レベルの“品質”“コスト”を実現しています。

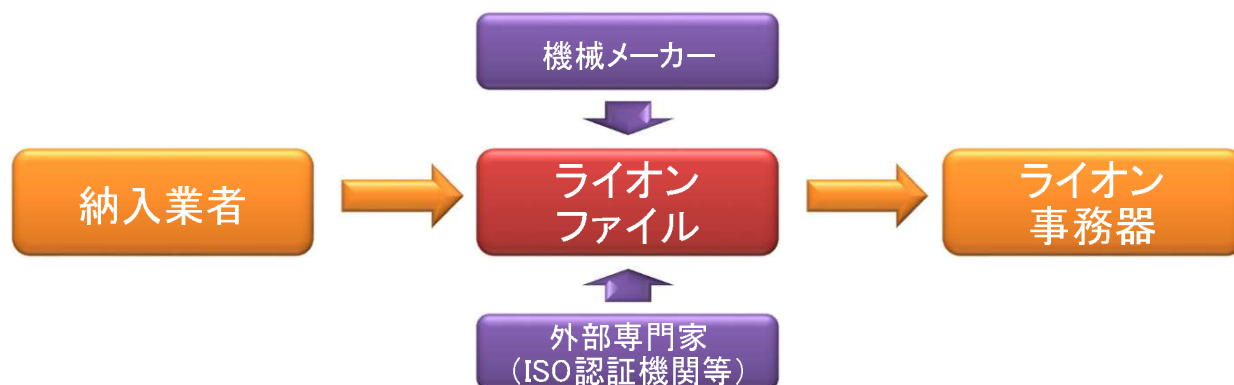


● 納入業者協力会「福和会」 ～サプライ&サポートチェーン～

しかし、自社の努力のみでは、要求されるQCDを達成することは出来ません。それには、納入業者・協力業者の存在が不可欠です。

当社納入業者各社は協力会「福和会」を設立し、ライオンファイルとの連携を強化しています。もともとは、35年程前から富士工場では福友会という仕入先様の会があり、岩槻工場（当時は別法人の東京ファイル）には協和会がありました。これらが1993年に合併し、「福和会」が設立されました。現在、15社の仕入先様で構成されています。

さらに、ラインの自動化を実現するために、省力化機械メーカーとの連携と、社内管理体制構築のための、ISO認証機関等外部専門家との連携が、それぞれ重要です。



3. 自社を取り巻く環境

新たな事業機会

“エコ製品” “海外生産” “オーダーメイド”

● 追い風 ～環境配慮型製品&海外戦略～

オフィスにある多くの書類は、ここ数年データ化の傾向もありますが、まだまだ紙媒体が主流であり、その保存には必ずファイル・バインダー類が必要となります。なかでも、グリーン購入法（国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律）の特定調達物品（判断基準に対応する物品）については、堅調な推移となっております（2007年度におけるファイル国内販売額は1,092億円、そのうち特定調達物品の国内販売額は938億円、特定調達物品の割合は85.9%、2000年度から約16ポイント上昇している：日本ファイル・バインダー協会調べ）。

◎とじ具を脱着でき、繰り返し再利用が可能な製品、◎製品リサイクルに適した各素材部品が分別可能な製品、◎古紙パルプ配合率70%以上・再生プラスチック配合率40%以上の製品を使用することにより、廃棄物の削減に繋がります。

業界内では、コスト競争力をつけるために、海外生産へシフトしています。当社も海外調達は行っていますが、将来的な戦略として、自社工場での生産を計画しています。当面は日本向け製品の生産のみですが、いずれ現地での販売も行っていく予定です。

● 競合他社との差別化戦略 ～オーダーメイド品の充実～

現在、日本ファイル・バインダー協会に加入している会員企業は26社です。なかでも、(株)ライオン事務器の競合は、同じく日本有数のメーカー数社であります。文具店等小売業向け営業が得意な競合他社に対し、(株)ライオン事務器は一般官公庁向け営業を得意としています。一般官公庁向け営業は、コスト要求がより求められる分野であり、ライオンファイルのコスト競争力を発揮できます。

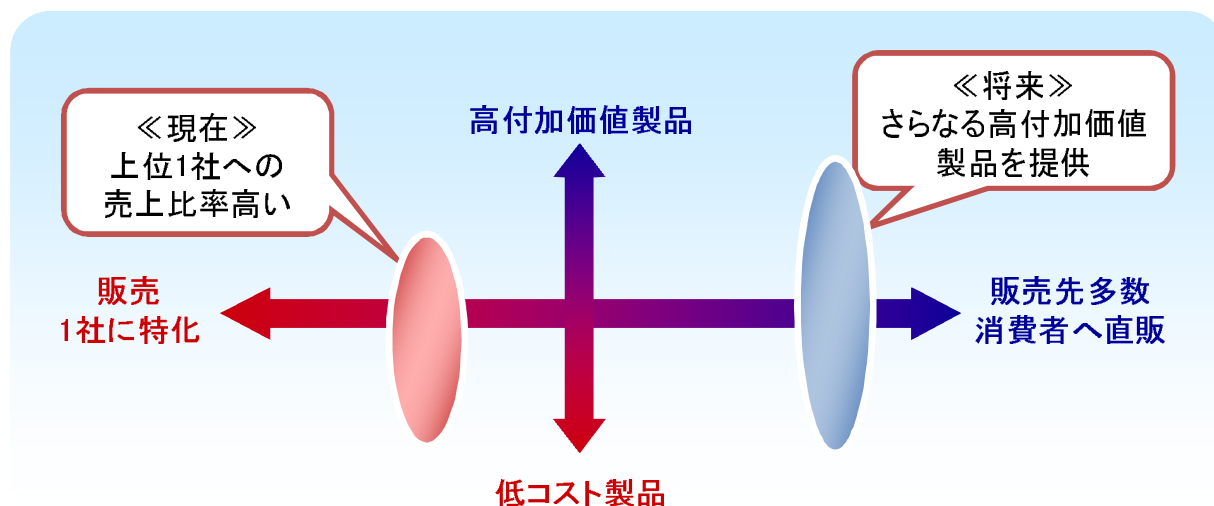
また、多くの競合他社が生産機能の多くを海外へ移管しているのに対して、ライオンファイルは国内を軸に生産を行っています。そのため、オーダーメイド品など短納期が求められるものに関しては、非常に有利です。今後は、直販体制も含めた、オーダーメイド品のさらなる充実を図ります。



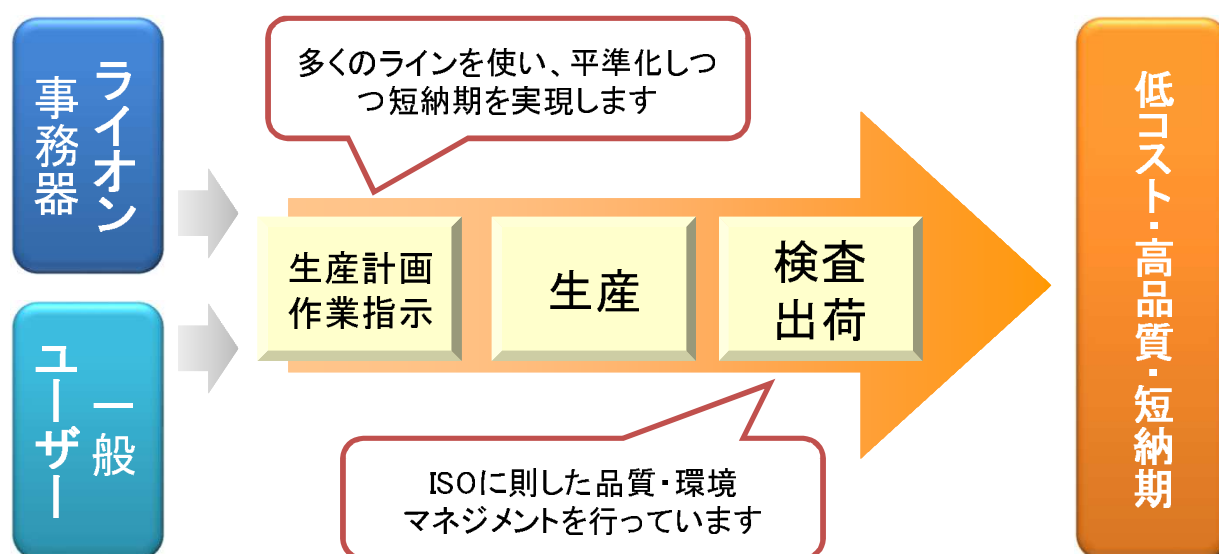
4. ビジネスモデルと自社のこだわり

当社の取引先の構成

“上位1社へ集中”から“取引先・製品の多様化”



製品化実現プロセス



5. 将来に向けた価値創造

**(株)ライオン事務器とのさらなるパートナーシップの構築
＋ 新たな事業機会への挑戦！**

海外生産

エコ製品

オーダー品



KPI

一人当たり生産冊数 直販比率 不具合率 オーダー品納期 歩留り率 生産平準化率 多能工率 標準作業量 改善提案数
OJT総時間 勉強会回数 従業員定着率 社内イベント数

6. 人材育成方針

**人と人との調和を図りながら
「働き甲斐」のある職場を目指します**

人と人との調和を計りながら「働き甲斐」のある職場を目指し、企業を通して地域社会に貢献し、日本の事務機器業界のパイオニアとして常にビジネス環境の進化の最先端を走り続けてきた「ライオン事務器」の中核企業として、社会のニーズを適確にとらえながら、価値ある商品づくりをモットーに「世に残る商品を心をこめて」たゆまぬ挑戦を続けてまいります。



代表取締役社長

勝又 規雄

